

**平成30（2018）年度  
研究、教育、社会・学会活動報告書**

1. 研究（本年度のみ）

教員氏名	伏見 康子	職 位	准教授	学 位	博士 (経営学)
専門分野					
研究課題	テーマ	①簿記会計教育、②会計評価に関する研究			
	概要	<p>①簿記会計の教育のあり方について研究する。検定合格という狭い短期的な目標ではなく、会計(学)の役割を理解したうえで、その知識を実際の企業活動や企業人としての業務活動においてより適切に活用できるような人材の育成を目指す。そのためのカリキュラムや講義内容、さらに具体的な教授法について検討していく。</p> <p>②金融商品を中心とした会計評価について、現在の経済活動や環境を踏まえたうえで、より適切な会計評価の方法や基準のあり方について研究する。また、わが国の会計基準や国際財務報告基準、米国財務会計基準の動向についても継続して調査・研究していく。</p>			
本年度 研究業績	研究費	総額： 200,000 円 内訳：個人研究費 200,000 円 / 科学研究費 円 そ の 他 円			
	研究テーマ	①簿記会計教育、②会計評価に関する研究			
	経過と到達点	<p>①教育研究については、教材開発や教授法の研究をこれまでと同様に継続して行ってきた。中級簿記（2級商業簿記）については、日商簿記検定出題区分改訂の段階的適用が今年度で最終段階に入り、2級新範囲の中でも最も複雑な会計処理が導入された。そのため、さまざまな書籍を比較検討しながら、より効果的な授業計画や説明方法、練習問題の構成を含めた教育教材研究を行い教材を作成した。</p> <p>②会計研究については、「会計評価論研究のゆくえ」というテーマで論文にまとめ、共著書の出版に向けて具体的に作業を進めている。</p>			

(1) 学術論文

	論文等の名称	発行年月 (西暦)	単・共著 の別	発表雑誌等	概要
①英文査読 論文					

②和文査読論文					
③英文論文					
④和文論文					
⑤紀要論文					
⑥紀要研究ノート等					
⑦学会での口頭発表、討論者（ディスカッサント）	本学における会計教育の現状と課題(仮)	2019年3月予定	単	京都経済短期大学経営・情報学会	本学では、日商簿記3級対策として3科目（半期4コマ相当）を配置し、具体的な受験対策までを専任教員が行っている。このような形態を置いている理由は、第1に学生の簿記検定に対する意欲の高さにある。簿記検定も重視したカリキュラムが、本学学生にとってどのような影響を与えているのかを検証し、今後の課題について明らかにする。

## (2) 著書

	著書名	発行年月 (西暦)	発行所等の名称	概要
⑧共著書・共訳書	会計研究方法論の継続と発展	2019年 近刊予定	千倉書房	第15章「会計評価論研究のゆくえ」担当。会計評価においては、これまでの会計の歴史の中で「原価」か「時価（公正価値）」かという議論が繰り返し起こり、現在もその議論がある。これまでの会計評価における議論とその背景を検討したうえで、現状の論点を整理し、今後の研究課題を明らかにすることを目的としたものである。
⑨単著書・単訳書				

## (3) 外部研究資金獲得(競争的資金獲得)

	研究テーマ (代表研究者名)	期間年月 (西暦)	研究項目の名称 (文科省科研費等)	概要
⑩共同研究 (研究代表)				
⑪単独研究				
⑫共同研究 (分担研究)				

## 2. 教 育 (本年度のみ)

		前 期	後 期
		科目名	科目名
担当科目	講義	会計学Ⅱ、初級簿記、簿記特講Ⅰ	会計学Ⅰ、簿記特講Ⅱ 中級簿記Ⅰ、中級簿記Ⅱ、
	演習	基礎ゼミナール、ゼミナールⅡ	ゼミナールⅠ、ゼミナールⅢ
	実習		
教育内容・方法 の工夫	<p>◆ 講義科目</p> <p>学生数の増加をふまえて、簿記特講Ⅰを3クラス、簿記特講Ⅱを2クラスの体制へと変更し、さらに前者の開講時期を前倒しするなど、簿記学習の定着や検定合格の成果を上げるための工夫を行った。また、会計教員間の打合せを密に行い、協力体制と役割分担を構築して全体的な改善を進めることができた。検定対策も複数クラス体制となったことから、そのクラス分けを学生の理解度に合わせて編成し、学生の理解に合わせてより効果的な授業内容を組み立てた。その結果、3級については昨年の約2倍の合格者を達成できた。</p> <p>会計学Ⅰおよび会計学Ⅱの理論科目においては、テキストの内容について重要なポイントを把握できるよう各授業のレジュメを適宜更新した。最新の企業会計に関する事例についても新聞記事を活用して積極的に取り上げた。アクティブ・ラーニングも常に意識し、学生自身に「適切な会計処理はどうあるべきか」を考えて記述させたり、クイズを提示して学生自身で考えて答えを導く取り組みも行った。</p> <p>学生からの声として、「今まで意味を考えずに覚えて仕訳していたが、意味やその処理の意義が理解できたことで、興味が深まった」というものが多くあった。</p>		

	<p>◆ 演習科目</p> <p>1年生の基礎ゼミナールでは、各個人で調べたり、グループで意見を交換を行ったうえで文章にまとめて全員の前で発表するなど、個人活動とグループ活動をそれぞれ重視した。その結果、多くの学生が自主的に発言できる雰囲気が出た。</p> <p>2年生のゼミナールⅡおよびⅢでは、毎回2、3組が各チームの卒業論文を発表し、その内容について学生が中心となって質疑応答をするよう進めた。回を重ねるにつれて発言の内容が深いものとなり、学生の成長がみられた。</p> <p>1年生のゼミナールⅠでは、秋の秋華祭の模擬店を企業経営の機会ととらえて、資金調達や商品企画、利益計画など具体的な数値を使いながら、簿記や会計、経営について理解を深めさせるよう取り組んだ。グループを作りさまざまなテーマについて議論し発表する活動も多く取り入れた。</p> <p>ただし、ゼミ生の人数が増加し、検定対策の負担も重くなる中で、ゼミ生への個別対応をいかに適切かつ丁寧に行うかが課題として残っている。</p>
	実習科目
	◆ その他（教科書・教材等の作成を含む。）

## (1) 課外活動

①研修旅行 国内	
②研修旅行 国外	

## 3. 社会・学会活動（本年度のみ）

## （1）公的委員会

分 類	活動・講演の概要
①委員長・座長	
②委員・アドバイザー	

## （2）講演会

分 類	活動・講演の概要
③講演者・登壇者	

## 4. 特記事項（本年度のみ）

日帰り研修や学内勉強会を下記のとおり行った。

- ①夏期休暇中の簿記勉強会（1回生ゼミ生 22名およびその他希望学生 2名）
- ②夏休み卒論発表研修会（9月6日～7日、各日9時～14時、2回生ゼミ生 19名）
- ③11月簿記検定2級勉強会（10月1日～11月13日、毎週月曜IV講時・火曜V講時）  
日商簿記検定11月の2級を対象とした科目が、本学カリキュラムでは配置されていないため、個別対応の形で勉強会を実施した（参加者5名）。
- ④2月簿記検定勉強会（2月12日～23日全7日間予定、2級および3級対象）
- ⑤工場見学研修（3月8日9時～12時予定、株式会社明治大阪工場、1回生ゼミ生 22名）

授業改善に関する講習会への参加

- ①会計のERPシステム「idempiere」の講習会

企業経理の実務で活用されているコンピュータ会計を、本学でも科目として導入できないかとの意識から、他大学の教員と共同で講習会を企画し、実施予定である。（2月8日9時30分～13時00分、京都産業大学）